

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市栗生児童館
2 指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団
3 指定期間	平成29年4月1日から令和4年3月31日まで
4 施設の利用状況	<p>《利用者数》 18,650人（前年度比 68.1%） 令和元年度 27,395人 平成30年度 29,894人 平成29年度 29,495人</p> <p>《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業</p>
5 収支の状況	<p>《費用》 ()は前年度決算額</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定管理者に支払った費用 44,337千円 (44,950千円) その他市が負担した費用 0千円 (0千円) <p>《収入》</p> <ul style="list-style-type: none"> 使用料収入 0千円 (0千円) その他収入 0千円 (0千円)
6 利用者の声	<p>《実施状況》 利用者アンケート、児童館運営懇談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。</p>

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した丁寧な育成支援に努めている。また、昨年度より、コロナ禍のために縮小しているが乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、子育て支援クラブをはじめとする地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》
<p>地域との交流活動を通して、子ども達が地域住民に支えられ育っていることを実感できるような行事を模索し実施してきました。</p> <p>乳幼児親子の自由来館再開に伴い、保護者同士の交流や乳幼児同士の触れ合いは、コロナ禍で家庭に閉じこもりがちな現状への対応として、行事实践の手がかりになりました。地域とのつながりを第一に考え、行事の講師に地域の方を招いて行ってきました。児童クラブ対象のマジックショーでは、ショーを楽しむだけではなく子どもでも可能なマジックを教えていただき、親子での対話や子ども達の交流に発展させることができました。「ママはカメラマン」の行事は、スマホを用い子どものいきいきした表情を撮るコツを講師からわかりやすく教えていただき、日常生活をより豊かにする写真の活用方法を学ぶことができました。より多くの方の参加のためには、回数を増やしての実施も可能という好意的なお話を講師の方からいただきました。殆どの地域交流行事を中止せざるを得ない状況の中、地域在住の講師は、来館者や子ども達に地域の中の児童館をより強く印象づけ、今後につながる一端を担うことができました。保護者対象の「フラダンス」は、好みのパウスカートで南国ムードに浸りながら、日常とかけ離れた時間を持つことができました。あつという間に時間が過ぎ次年度はレベルに応じた教室を開催してほしいという要望まで出るほどでした。</p> <p>地域の方、保育所の先生、子育て支援クラブの協力のおかげで地域との絆をつなげることが可能となりました。</p> <p>児童クラブでは、館内を子ども達が作った飾りで装飾し、リフレッシュできる取組みを心掛けました。乳幼児親子の自由来館や土曜日の小中学生の利用も確実に増えています。コロナ禍の状況はすぐに収束しないと思われませんが、最善の対策を講じ、地域の中の児童館としての役割を今後とも果たせるように努めてまいります。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和2年度は、コロナ感染症の影響で緊急事態宣言が4月に発令され、小学校が5月まで休校となったが、休校中も児童クラブの受け入れを行った。この間、乳幼児親子の自由来館及び小学生の自由来館を休止していたが、その後、乳幼児親子の自由来館は6月から平日午前のみ再開し、小学生の自由来館は10月から土曜日のみ再開した。感染症対策のための参加人数の制限や環境の工夫を行うなど様々な配慮と努力を要した児童館運営となった。</p> <p>健全育成事業においては、コロナ禍の中でも子ども達が楽しめる内容を検討し、マジックショーの開催やブンブンゴマ作りやブラバンキーホルダーの工作など行事を開催してきた。キーホルダー作りでは、なるべく多くの子ども達が参加できるように時間をずらして2回開催するなど工夫が見られた。参加した子ども達は、家庭でも作って保護者や兄弟にプレゼントしたり、工作が苦手な子が上手にできて自信を持つなど子どもの意欲を引き出し、遊びへの興味関心を広げ豊かな人間性を育てている。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、年齢枠のない「すくすくひろば」を月1回開催し、写真館の講師による「ママはカメラマン」や母親対象のフラダンス講座、わらべ歌遊び、落合保育所子育て支援センターの保育士さんとあそぼうなど、親子の触れ合い遊びや育児相談などの内容で地域の方が講師となって交流できる場を提供しており、児童館が積極的に地域と関り、地域の方が応えてくれる関係作りができています。さらに子育て支援クラブと共催で食育講座や季節の工作、地域のボランティアの方のお話会等保護者のニーズにあった多彩なプログラムを提供しており、どこにも行く場がなかった親子にとって安心して参加できる場として、乳幼児親子の参加者増につながっている。さらに0歳児向けの活動をスペシャルとして取り組み、出産したばかりで子育てに不安を抱えている保護者に対して安心して参加できる場を提供し、地域の親子のニーズをとらえながら乳幼児親子を支援するための環境作りに努めている。</p>	S

四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子育て成部児童クラブ事業推進課